

建設産業委員会会議録（要点筆記）

令和6年8月5日（月）
午前10時30分 開会

○坂井美穂委員長

ただいまから建設産業委員会を開会します。

協議題1「閉会中の調査事項について」（1）リモート勉強会を行います。

本日は、これから当建設産業委員会の調査テーマである「循環型社会の実現に向けた市内の機運醸成・協働体制の仕組みづくりの強化」に関する調査研究の一環として、兵庫県姫路市様が取り組んでいる食品ロス^{売ってこ 買ってこ}を減らす取り組み（Utteco Katteco by タバスケ）について、リモートにて説明を受け、理解を深めてまいりたいと思います。それでは、姫路市リサイクル課大塚様よろしくお願いいたします。

○大塚晶弘姫路市リサイクル課職員

（資料に基づき説明。主な説明内容）

- ・ 姫路市は、総面積 53 km²、播磨地域の中核都市であり、人口は約 52 万人（令和 6 年 3 月時点）。臨海部には、鉄鋼・化学などの工場が集積する工業地帯がある。
- ・ 平成 31 年 2 月から「姫路市食品ロスもったいない運動」を実施。「姫路市食品ロスもったいない運動推進店」登録制度を創設するとともに、キャラクターを使った啓発による食品ロスもったいない運動を推進している。
- ・ ICT 事業者と課題を抱える行政職員が協働で地域や行政の課題に対する最適な解決手法を設計し、新たなサービスの構築を目指す取り組みとして庁内公募があり、コロナの感染拡大に伴い飲食店の食品ロスに大きな影響が生じたことを背景に食品ロス削減マッチングサービスについて取り組むこととした。
- ・ 導入にあたり、個人情報管理を限りなく少なくし、事業者や消費者が簡単に利用でき、開発費や運営費用を安くする仕様とした。マッチングサービス事業により、事業者は、廃棄物処理費用を削減できるとともに食品ロス削減に努めているといったイメージアップに繋がる、消費者は安価に食料を調達できるとともに、食育推進に繋がる、行政は、食品ロスに繋げることで、廃棄物処理費用を削減できるとともに循環型社会を実現でき、更には家庭での食品ロス削減啓発やフードバンク推進等へ繋がっている。
- ・ 運営等費用としては、地方消費者行政強化交付金を活用し、令和 6 年度の予算額は 130 万円。（内訳：啓発費 508 千円、運営費年間 792 千円）
- ・ 令和 6 年 7 月現在として、27 自治体が導入。協力店は市内 47 店舗。登録者は（タバスケ全体として）73,655 人。取引成立数は、11,435 件であり、削減量としては約 13 トンになる。
- ・ マッチングサービス事業により、食品ロスにならず約 740 万円の売上に繋がる効果が生まれた。また、新たな顧客を獲得することや、廃棄物処理費用の軽減にも繋がった。しかしながら、導入後、年数の経過により注目度が下がるため広報・啓発をどのように進めていくのか、協力店などを増やし、更なる利用拡大をどのように進めていくのか、更には、この事業をいつまで行うのか検討していく必要がある、という点が課題となっている。

○坂井美穂委員長

ありがとうございました。

説明いただいた内容等につきまして、ご質問はありませんか。

○伊藤正興委員

民間事業者がこれまでも類似のアプリを運用されている中で、今回、市が単独で民間事業者と組んで行うこととした一番の理由を教えてください。

○大塚晶弘姫路市リサイクル課職員

類似のアプリの場合、出店される事業者と利用者は、一定の利用料を支払うことになります。しかしながら、タバスケについては、市が運営を行うことにより、出店される事業者や利用者に負担いただく費用は一切ありません。事業者が利用料を支払ってまで登録をしても食品ロスには、なかなか繋がらないという点を市が担い、救うことで、食品ロスに繋げることができるかと判断したものです。

○伊藤正興委員

現在、予算化して実施されていますが、現時点では、しばらくこの事業を継続していく予定ですか。

○姫路市リサイクル課

現時点では、中止する予定はありません。今後、利用が減っていく、実際に、令和3年には2自治体が利用を中止しています。運用を開始したが、登録店が少ない、又は利用が全くなかったという状態が続いても、利用料は発生するとともに、食品ロスに繋がっていないということになるため、中止を考える必要性が生じます。しかしながら、現時点では一定の利用はなされており、食品ロスのみならず、店舗の売り上げにも繋がっていることから今後も継続していきたいと考えています。

○大山仁志市民経済部長

タバスケに係る費用として、登録している自治体が増えると自治体を支払う利用料は減るという考え方でよいのでしょうか。

○姫路市リサイクル課

タバスケについては、運営会社G-Placeがシステム開発を行っています。多くの自治体に導入していただければ、月額利用料が減ると考えられますが、より使いやすい内容に今年2月に更新をした状況です。更新にかかる費用により現在の月額利用料が高くなることはありませんが、逆に導入自治体がどの程度増えれば利用料が下がるということもなく、今後も資料に記載の利用料とほぼ同額が発生すると伺っています。

○澤田勝副委員長

タバスケの登録ユーザー数73,655人は、全国における登録者数ということでしょうか。

○大塚晶弘姫路市リサイクル課職員

その通りです。

○澤田勝副委員長

登録ユーザー数のうち、市内の登録者数を把握することは、できるのでしょうか。

○大塚晶弘姫路市リサイクル課職員

タバスケについては、個人情報に極力当たらないこととして管理をしていますが、登録時に最寄り駅を登録していただき、利用できる内容となっています。そのため、最寄り駅として市内の駅を登録している方の人数を把握することができます。この方法による把握人数は、約6,000人が該当しますが、最寄り駅となるため、市内在住かどうかは不明です。また、兵庫県内を最寄り駅として登録している方は約8,600人みえます。

○澤田勝副委員長

タバスケを導入したことにより、業務量として、どのような変化がありましたか。

○大塚晶弘姫路市リサイクル課職員

姫路市においては、食品ロスなどの取組みに関する推進店の存在がもともとあり、タバスの導入の際にもこの推進店に協力依頼を行い、登録をしていただくことに繋がっている背景があります。本市のように推進店といった母体がない自治体が導入する場合には、各店舗を職員がチラシを持参して説明のために回られたと伺っているため、労力を要すると思います。また、チラシを持参するだけでは、なかなか登録店舗数の増加に繋がらないとも伺っています。

○坂井美穂委員長

本日は、リモート勉強会を実施いただき、ありがとうございました。まだまだお聴きしたいところではありますが、予定時間を過ぎており、これ以上時間を割いてしまうことは申し訳ありませんので、最後に澤田勝副委員長からお礼の挨拶を申し上げます。

○澤田勝副委員長

リサイクル課があることからリサイクルに市として取り組んでいると感じられるとともに、本事業についてサービスの終期まで考え、取り組んでみえる点などいろいろと参考になりました。本日は、ありがとうございました。

○坂井美穂委員長

以上をもちまして、リモート勉強会を閉じさせていただきます。姫路市リサイクル課大塚様、本日はありがとうございました。
しばらく休憩します。

午前11時41分 休憩

午前11時42分 再開

○坂井美穂委員長

会議を再開します。

続きまして、(2) 県外視察について、を行います。

前回の委員会にてご案内をしましてとおり、日程は11月5日(火)から7日(木)の3日間です。行程表につきましては、資料行程表(案)のとおりです。1日目、11月5日の午後に徳島県徳島市へ視察、2日目、11月6日の午前に同県上勝町へ視察を行い、視察後香川県高松市へ移動します。3日目の朝、坂出市へ移動し、午前に視察を行います。宿泊は、1泊目徳島市、2泊目高松市を予定しています。視察先3市における取組み状況については、次回の委員会にて説明を予定していますのでよろしくお願いします。

続きまして、(3) 今後のスケジュールについて、を行います。

本日行いましたリモート勉強会のまとめ及び視察後の意見集約、報告案協議に向けた今後の委員会の委員会の日程を決定させていただきたいと思います。

しばらく休憩します。

午前11時43分 休憩

午前11時50分 再開

○坂井美穂委員長

会議を再開します。

休憩中に日程調整を行った結果、今後の委員会の開催予定日としては、8月19日(月) 全員協議会終了後から、9月10日(火) 決算審査終了後から、10月15日(火) 午前10時30分から、1月20日(月) 9時30分から、2月4日(火) 午前10時30分からとさせていただきたいと思います。なお、県外視察後の委員会開催日につきましては、後日、改めて日程調整をさせていただくことにしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

【「異議なし」との声あり】

ありがとうございます。それでは、決定しました日程に合わせて、委員会を開催させて

いただきます。なお、本日のリモート勉強会報告書につきましては、8月13日（火）までに、事務局まで提出をお願いします。他に何かありましたらお願いします。

【「なし」との声あり】

ないようですので、この件はこれで終了します。

以上で、本日予定しておりました議事は、すべて終了いたしました。本日の委員会はこれにて閉会いたします。

午前11時52分 閉会